

番組審議会

第629回

開催日 令和元年7月16日(火)

■委員の出席

委員総数 10名

出席委員数 10名

出席者

委員長 音 好 宏

副委員長 中 江 有 里

委 員 石 田 衣 良 江 澤 佐知子

尾 縣 貢 萱 野 稔 人

喜田村 洋 一 佐 藤 智 恵

水無田 気 流 藤 原 帰 一

TBSテレビ 佐々木 社 長

國 分 常務取締役

伊佐野 取締役

合 田 編成局長

本 田 報道局長

佐 藤 報道局総合編集センター

編集部統括編集長

中 山 編成考査局長

鈴 木 編成考査局視聴者サービス部長

岩 村 番組審議会事務局長

■議事概要

(1) 審議事項

- 1) 「災害報道」について報告
- 2) その他

(2) 事務局報告事項

- 1) 視聴者からの声について
- 2) 次回審議会の議題及び日程について

【委員の主な発言】（「災害報道」について）

- 現場の報道と、そこからやや離れた、全体の被害状況の報道のバランスは大変難しい問題だ。また、SNSによる情報には真偽の不確かなものがある中、テレビ受像機が目の前にない人に対して報道機関としての報道をどのように行うのか、より検討してほしい。
- 非常時には、女性や外国人、子どもや障害のある方、高齢の方などの安全や権利がないがしろにされる傾向がある。そういう問題について、平素から方策を考えておいてほしい。
- 災害から時間がたつにつれ、ニュースがどんどん感情寄りになり、事実と感情の境目がわからなくなっていくところがある。東日本大震災が人の心に与えたダメージは、こういう感情報道によって実際の形より大きくなったのではないか。事実の報道と人の心を扱う部分のバランスを考えてほしい。
- 震災の際に私は医師として、持病のある方や妊婦の緊急医療などのためチームを組んで被災地に行ったが、こういう情報はどこで、どう伝わるんだろうと思っていた。サポート体制が整っているのに情報発信ができず、受け手が必要な情報を得られなければ、救われる命も救われない。こうしたことも踏まえて、災害報道を考えていってほしい。
- きちんとした情報の発信はもちろん重要だが、記者の安全も確保しなくてはならない。災害報道であっても「この取材をせよ」という指示を、社員にど

こまで、何のために言えるのかは常に考えておかないといけない。

- ネットなどによる風評被害を防ぐ役割にも期待する。
- チームJ、チームJNNという非常に手厚い多層構造を作っていることを評価したい。
- テレビというメディアは、どうしても映像に頼る部分があり、いかに悲惨な映像を撮るかとか、いかにインパクトのある映像を選ぶかということに重きを置きがちなのでそこは留意してほしい。
- 地元のケーブルテレビとの連携や、Lアラートの活用などを通じての行政災害情報とのスムーズな連動の可能性もあるのではないかと。

* TBSでは番組審議会委員のご意見を真摯に受け止め、今後の番組内容の向上に活かしていく所存です。 (TBSテレビ番組審議会事務局)